



## ◆◆関東地方整備局の動き◆◆

### 1. 「ICT計測Webセミナー」を開催いたします ～ICT施工3次元データの取扱～

関東地方整備局  
企画部

国土交通省関東地方整備局では、ICT 施工に用いる 3 次元データの取扱について、「起工測量」「設計データ作成」「出来形管理等の施工管理」に関する理解を深めることを目的とした Web 配信セミナーを開催します。

#### 【募集概要】

- 募集対象：ICT 施工に興味をお持ちの方
- 募集期間：令和 3 年 8 月 24 日(火)～9 月 17 日(金)15 時 00 分まで
- 講習概要：TLS 等による起工測量・設計データ作成・出来形計測等の 3 次元データを専用ソフトによる加工処理から帳票作成までの一連作業の処理方法。
- 講習費用：無料
- 講師：ICT アドバイザー
- 開催日時：
  - (1)令和 3 年 9 月 7 日(火)10 時 00 分～16 時 10 分
  - (2)令和 3 年 9 月 10 日(金)10 時 00 分～16 時 10 分
  - (3)令和 3 年 9 月 29 日(水)10 時 00 分～16 時 10 分
- 開催方式：WEB 配信(Microsoft Teams 利用)
- その他：本セミナーは、CPD/CPDS の認定プログラムではありません。

詳細は、本文資料(PDF)別添資料をご参照ください。

この記事や、この記事の添付資料を以下の関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。  
[https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kikaku\\_00000874.html](https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kikaku_00000874.html)

### 2. 新たに1箇所の「かわまちづくり」計画が登録！ ～河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成に向けて～

関東地方整備局  
河川部

国土交通省は、令和 3 年 8 月 20 日付けで「かわまちづくり」支援制度に係る計画の登録を行います。関東地方整備局管内においては、新たに 1 箇所の「かわまちづくり」計画が登録されましたので、お知らせします。

「かわまちづくり」とは、地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地元住民等と河川管理者が各々の取組を連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組です。

#### 添付資料

本文資料 (PDF) 別紙 1 : 登録箇所位置図

本文資料 (PDF) 別紙 2 : 計画の概要

参考 : かわまちづくり支援制度の概要

#### ◆令和3年度関東地方整備局管内「かわまちづくり」計画の登録箇所一覧

No.	都県名	市町村名	水系名	河川名	登録箇所名	推進主体	河川管理者	備考
1	東京都	板橋区	荒川	荒川	板橋区 かわまち づくり	板橋区	国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事 務所	本文資料 (PDF) 別紙 2

この記事や、この記事の添付資料を以下の関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。  
[https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river\\_00000597.html](https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river_00000597.html)

### 3. 道路に関する新たな取り組みの現地実証実験(社会実験)の実施について

関東地方整備局  
道路部

○国土交通省道路局では、社会的に影響を与える可能性のある道路施策の導入に先立って、地域住民等の参加のもと、場所や期間を限定して当該施策を試行・評価し、もって新たな施策の展開と円滑に事業を執行することを目的とする現地実証実験(社会実験)を、公募により平成11年度から実施しています。

○令和3年度においても実験を実施する地域を公募し、関東地方整備局管内では、以下の実験が採択されましたので、お知らせします。

申請団体	実験の名称	実験の概要	タイプ
栃木県	栃木県宇都宮市 東部地域における ICT・AIを活用した 渋滞対策	過去及び現況の蓄積された交通量データと民間プローブデータを活用し、渋滞予測モデルを構築することで、渋滞予測モデルから得られた交通情報をICTの活用により道路利用者にリアルタイムで提供し、経路選択や利用時間帯の分散等を図る。	現地実証実験タイプ(単年度)

○社会実験については、以下のホームページをご覧ください。

<https://www.mlit.go.jp/road/demopro/index.html>

この記事や、この記事の添付資料を以下の関東地方整備局ホームページをご覧ください。

[https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/road\\_00000332.html](https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/road_00000332.html)

#### 4. “地域インフラ” サポートプラン関東 ～「技術者スピリッツ」紹介～

関東地方整備局  
企画部

関東地方整備局では、年間約1,200件の工事を行っています。私どもは、これまで工事の目的や出来上がった際の効果を中心に広報してきました。建設工事は、いわゆる一品生産です。各現場では、品質が良く、地域の方に末永く使ってもらえるものを作ろうと技術者が日々努力をしています。世界に一つだけの工事に携わる技術者に光をあて、関東地方整備局ホームページにて紹介しています。

(現在、412話まで掲載中)

是非ご覧ください、「喜ばれるものを作る」奮闘する技術者の魅力が伝われば幸いです。

「技術者スピリッツ」は以下の関東地方整備局ホームページをご覧ください。

<https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/index00000022.html>

### ◆◆国土交通本省の動き◆◆

#### 1. 「官民連携推進講演会」の開催

～様々な事例を通して、官民連携を進めるためのヒントをご紹介します～

公共施設等の整備・運営に民間の資金や創意工夫を活用し、良好な公共サービスを実現するためには、多様な官民連携を推進することが重要です。

この度、公共施設等の整備・運営に関する官民連携をさらに進めていくことを目的に、「官民連携推進講演会」を開催します。

国土交通省では、官民連携の案件形成等に関する情報やノウハウの横展開を図ることを目的に、各種セミナー等の開催に取り組んでいます。

この度、地方公共団体や民間事業者、金融機関などから官民連携に関する取組を紹介していただく「官民連携推進講演会」を開催します。

官民連携を検討されている皆様のご参加をお待ちしています。

##### <開催概要>

日時 : 令和3年9月17日(金) 13:30～16:30

形式 : WEB形式 (Zoom ウェビナーを予定)

内容 : 「別紙1」を参照

対象者 : 地方公共団体職員や民間事業者、金融機関等

定員 : 800名

参加費 : 無料

<申込方法>

・参加希望の方は、令和3年9月8日(水)17:00までに、下記URLにアクセスしていただき、参加申込フォームに必要事項をご記入の上、お申込みください。

URL: <https://forms.office.com/r/Ofc6Nk5Rgp>

・参加申込は先着順で、定員に達した時点でお申込みを終了させていただきます。  
・WEB形式による参加方法等については、参加者の皆様に別途ご案内いたします。

この記事や、この記事の添付資料を以下の国土交通省ホームページでご覧いただけます。  
[https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo21\\_hh\\_000167.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo21_hh_000167.html)

## 2. 第2回グリーンインフラ大賞の募集を開始！ ～グリーンインフラに関する優れた取組事例を表彰します～

グリーンインフラ官民連携プラットフォームでは、昨年に引き続きグリーンインフラに関する優れた取組事例を表彰し、各部門の「グリーンインフラ大賞」を選定します。

※グリーンインフラ官民連携プラットフォームは、多様な主体の積極的な参画及び官民連携によりグリーンインフラを推進することを目的に、令和2年3月19日に設立され、会員は都道府県・市区町村、関係府省庁、民間企業・学術団体、個人などから構成されています。

<第2回グリーンインフラ大賞 応募概要>

応募期間：令和3年8月12日(木)～9月30日(木)17:00必着

応募区分：以下の4つの部門で優れた取組事例を表彰します。

部門		第1回グリーンインフラ大賞 受賞事例	
I	<b>防災・減災部門</b> 雨水貯留・浸透等による気候変動・防災・減災に関する取組		仙台ふるさとの社再生プロジェクト
II	<b>生活空間部門</b> 戦略的な緑・水の活用による豊かな生活空間の形成に関する取組		(左)茨城県守谷市における官民連携による戦略的グリーンインフラ推進プロジェクト (右)中間支援組織がつなぐ狭山丘陵広域連携事業
III	<b>都市空間部門</b> 官民連携等による投資や人材を呼び込む都市空間の形成に関する取組		Marunouchi Street Park 2020
IV	<b>生態系保全部門</b> 豊かな自然環境・景観・生態系の保全による地域振興に関する取組		「コウノトリ野生復帰」をシンボルとした自然再生

※基本的にはプラットフォームの会員が応募資格となります(会員との連名等でも応募できません)。

※昨年度実施した第1回グリーンインフラ大賞に応募いただいた事例についても再応募可能です。(ただし、既に大賞・優秀賞を受賞した事例は、審査から除外されます)  
※取組事例とあわせて技術・手法についても幅広く募集します。グリーンインフラ普及のための調査・研究に活用する予定です。

この記事や、この記事の添付資料を以下の国土交通省ホームページでご覧いただけます。  
[https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10\\_hh\\_000256.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000256.html)

### 3. Project PLATEAU ～全国56都市の3D都市モデルのオープンデータ化を完了～

2020年度からスタートしたProject PLATEAU（プラトー）では、スマートシティをはじめとするまちづくりのデジタルトランスフォーメーションを進めるため、現実の都市をサイバー空間に再現する3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を進めてまいりました。

8月6日に、**全国56都市の3D都市モデルのオープンデータ化を完了しました。**  
官民の多様な領域でデータを活用頂くことで、オープンイノベーションを創出し、まちづくり、防災、カーボンニュートラルなどの社会課題の解決に貢献してまいります。

#### [\*オープンデータ化の完了]

Project PLATEAUでは、本年3月より、2020年度に整備した全国56都市（公募で選定）の3D都市モデルのオープンデータ化を順次進めてまいりました。8月6日より、**全国56都市（面積約1万km<sup>2</sup>、建物約1千万棟）全てのオープンデータ化が完了し**、一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会が運用する「G空間情報センター」においてダウンロード可能となりました。

PLATEAUのオープンデータには政府標準利用規約、CC BY 4.0等のオープンライセンスが採用されており、クレジット表記を行うことにより、データの複製、再配布、加工、商用利用等が可能です。

また、PLATEAUウェブサイト上ではデータ仕様を標準仕様書等のドキュメントとして公開しています。地方公共団体や民間企業の皆様におかれてはぜひご活用下さい。

#### <PLATEAU オープンデータポータルサイト>

G空間情報センター：<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/plateau>

56都市属性リスト：<https://gic-plateau.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/2020/attributedata.pdf>

#### <ライセンス>

PLATEAU サイトポリシー：<https://www.mlit.go.jp/plateau/site-policy/>

#### <各種ドキュメント>

PLATEAU Libraries：<https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/>

#### <Project “PLATEAU” >

ウェブサイト：[www.mlit.go.jp/plateau/](http://www.mlit.go.jp/plateau/)

Twitter：@ProjectPlateau

この記事や、この記事の添付資料を以下の国土交通省ホームページでご覧いただけます。  
[https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi03\\_hh\\_000078.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi03_hh_000078.html)

#### 4. デジタルツインの実現に向けて連携を拡充 ～国土交通データプラットフォームでの3D地形図表示の実現と3D都市モデル（PLATEAU）等との連携～

国土交通データプラットフォームにおいて、従来の2D地形図に加え3D地形図での表示が可能となるとともに、3D都市モデル（PLATEAU）などとのデータ連携が拡充されました。

また、国土交通データプラットフォームへの実装に向け、データ利活用を推進するための要素技術に関する研究開発について、新たに公開しました。

##### 【国土交通データプラットフォームの概要】

- ・国土交通省と民間等のデータによるデジタルツインの実現を目指す
- ・3次元データ視覚化機能、データハブ機能、情報発信機能を有するプラットフォームの構築
- ・APIを活用することでデータを最新の状態で提供
- ・業務の効率化やスマートシティの推進、産学官連携によるイノベーション創出  
※利活用イメージとして、民間企業より提案いただいたものを併せて公表します  
※API:サービスの機能やデータ等を他のサービス等から呼び出して利用するための接続仕様

##### 【今回の追加データ】

###### 【[1] 3D地形図、3D都市モデル】

- ・3D地形図（国土地理院標高DEM）【新規追加】
- ・国土交通省が主導する、日本全国の3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化事業 Project PLATEAU（プラトー）によって整備された29都市の3D都市モデル【新規追加】  
※今後順次、全56都市の3D都市モデルを公開予定

###### 【[2] 全国道路・街路交通情勢調査】

- ・平成27年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査結果【新規追加】

###### 【[3] 東京都ICT活用工事データ】

- ・東京都が行ったICT活用工事での点群データ【13件追加】

###### 【[4] 要素技術の研究開発】

- ・2次元CAD図面から3次元モデルを自動で作成する技術に関する研究開発【新規追加】
- ・電子成果品のメタデータを自動で作成する技術に関する研究開発【新規追加】  
※国土交通データプラットフォームのSHOWCASEのページで研究開発状況の概要を公開

この記事や、この記事の添付資料を以下の国土交通省ホームページでご覧いただけます。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08\\_hh\\_000819.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_000819.html)

## 5. 災害時に備えて、電動車の活用を！

多くの電動車※は、外部給電機能を備えており、災害時に「移動式電源」として活用することができます。令和元年房総半島台風（第15号）による停電の際には、避難所等において電動車からの給電が行われましたが、非常時に電動車から給電できることを認識されていない方もいるため、経済産業省と連携した電動車の活用に関する国土交通省の取組等について改めて紹介いたします。

（※電動車とは、電気自動車、燃料電池自動車、プラグインハイブリッド自動車、ハイブリッド自動車を指します。ハイブリッド自動車についても、100V用電源コンセントを利用可能な車種も多く存在します。）

台風や地震などの災害時には、停電が発生する恐れがありますが、多くの電動車を「移動式電源」として活用することにより、避難所等に給電することができます。

令和元年房総半島台風（第15号）による停電の際には、自動車メーカー等が被災地に電動車を派遣し、外部給電機能を活用した活動を行いました。具体的には、避難所での携帯電話の充電や乳幼児、高齢者などがある個人宅や老人ホームなどでの給電を行いました。

停電が発生した際、電動車を迅速に派遣し、円滑な災害対応に貢献するため、自治体と自動車メーカー等が、災害時における電力の確保を目的として、災害時の連携に関する協定を締結する動きが全国で加速しています。自治体や自動車メーカー等からは、協定締結に関する情報や災害時の活用事例、訓練の様子などが公開されていますので、電動車の活用を検討されている自治体の皆様におかれては、ご参考にしてください。

国土交通省としましては、昨年7月、経済産業省と連携して、「災害時における電動車の活用促進マニュアル」を作成しました。同マニュアルでは、電動車を保有されている方や電動車の活用を検討されている自治体をはじめとする皆様の参考となるよう、電動車の外部給電機能、給電時の注意事項等をまとめています。

今後とも、自治体等に対し、経済産業省と連携しながら、災害時における電動車の活用方法についての周知・啓発を行います。

【参考1】「災害時における電動車の活用促進マニュアル」を公表します。

（国土交通省プレスリリース）

[https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10\\_hh\\_000236.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000236.html)

【参考2】総力戦で挑む防災・減災プロジェクト

[https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/sosei\\_point\\_tk\\_000034.html](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/sosei_point_tk_000034.html)

（注意事項）

浸水・冠水した車両は、感電・火災が発生するおそれがありますので、使用しないでください。

【参考3】浸水・冠水被害を受けた車両のユーザーの方へ

（国土交通省プレスリリース）

[https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha\\_fr09\\_000100.html](https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_fr09_000100.html)

この記事や、この記事の添付資料を以下の国土交通省ホームページでご覧いただけます。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10\\_hh\\_000255.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000255.html)